# 山と花のたより 145号

２０１２年２月２０日　松尾

メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp

## ゴンドラから野生のカモシカが

### 友の会新年会旅行で雪の御在所岳に

1 月 29 日(日)健生会友の会の「新年会日帰り旅行」が行われました。行く先は三重県湯ノ山温泉。私は会長なのに、うっかりして出発時刻に遅刻し、近鉄特急で追いかけて現地で合流という失態をやらかしてしまいました。弁解の仕様のないものです。

さて湯ノ山温泉に着いた一行はゴンドラで御在所岳に。そこは想像を超える深さの雪の世界。みんな楽しかったようです。

昇りのゴンドラで「この山には野生のカモシカも沢山棲み・・」とアナウンスが流れたとたんに、険しい崖のテラスで餌を食むカモシカが視界に。同乗者たちは大喜び。そして降りの車窓からも２頭のカモシカを見ることが出来ました。

野生のカモシカにはなかなか遭えないものです。もう 10 年以上前のことですが、大峰山系勝負塚山から川上村上多古に下る途中で、気配(視線)を感じて、そちらを見ると灰緑色のカモシカがジッと私を見つめていました。若い個体でした。見返しながらカメラを手探りで探している間に、彼はゆったりと藪の中に消えていきました。

そして何時だったか、長姉と二人で群馬県草津白根山の芳ケ平への山道を歩いていて、黒い大カモシカに出逢いました。その時も私達をしばらく見つめてから悠然と立ち去りました。

ウシ科のこの動物は、好奇心が強いらしく、山仕事をしている知人から「近くにいて、仕事の邪魔なので石を投げて追い払う」との話を聞いたことがあります。

## 興味深く聴いた「奈良の山の成り立ち」

### 土庫病院友の会・山歩きクラブのハイキング講座

2 月 18 日大和高田市内の健生荘で、ハイキング講座「大峰山・大台ケ原山系―3 億年の壮大な自然の生い立ち」が開かれました。主催は土庫病院友の会・山歩きクラブ。講師は元県立高校教諭で「大和大峰研究グループ」の南浦育弘さん。

南浦さんは自ら撮影した奈良県の山々や各地の地形、地層、岩石などをスライドで示し、その特徴と形成の歴史を語りました。

さらに進んで3億年に亘る地殻プレートの移動、衝突、日本列島形成にいたる陸と海の変遷、それらに伴う火山噴火、隆起や沈降、長期の浸食などによって、それぞれの山脈や山が造られてきたことを説明しました。

会場には岩石の実物見本、地図や地勢図、地層などの写真、スケッチなどが展示されていました。

受講者は32名でしたが、「以前吉野の山村に住んでいた。懐かしい山や谷の写真があり、それらの説明を聞いて嬉しかった」「鎧岳など室生火山群と呼ばれていた山々が大台ケ原山大噴火の流出物とは驚いた。今日来た甲斐があった」「二上山、耳成山、畝傍山は火山だったのか」「奈良県の山々の形成史が大まかにつかめた」「難しかったけど、よく準備されたいい話だった。3億年間の地球史の話で目を開かされた感じだ」など感想を述べていました。

また講師らの共著「大峰山・大台ケ原山―自然のおいたちと人々のいとなみ」(築地書館)を何人もの人が購入していました。

## 野山の不思議 ⑲　「竹の秋」

寒い日々が続く２月はじめ、二上山では鶯の初音が響き、桜の花芽が膨らみを見せています。動物も植物も春を告げているのです。もうすぐ山は色合いも濃淡も様々な緑に覆われます。山全体が春の輝きを放っている時期に、竹林だけが枯れ葉色に変わり、葉を落とし始めます。この現象は「竹の秋」とよばれ、この言葉は春の季語となっています。

実は古い葉と新しい葉とが入れ替わっているのです。このように竹は毎年葉を落としますが「落葉植物」ではなく、「常緑植物」です。

この「竹の秋」の頃はタケノコが急成長する時期ですから、竹は子孫を増やすために、本体の身を削って、水分と栄養をタケノコに集中しているかのようです。

そしてタケノコが生長し終わると、あの萌黄色の枝葉を風にそよがせて、何ともいえぬ涼感を運んでくるのです。このことは「竹の春」とよばれ、秋の季語となっています。

半周遅れの長距離ランナーのような竹の生態には「野山の不思議」を感じますが、そうした自然の変化、事象に敏感に、そしてこまやかに対応している日本のことばにも感嘆させられます。

以上　145号